

平成 1 6 年度

二級実験動物技術師認定試験
(高校生)

各 論
(ウサギ)

試験時間：13時00分～15時00分

解答は答案用紙の該当欄の を鉛筆で黒く塗りつぶして下さい。
をはみ出したり塗りつぶし方が不十分にならないよう注意して下さい。

平成 1 6 年 8 月 1 5 日

(社)日本実験動物協会

各論：ウサギ

それぞれの設問について、該当するものを選び、解答用紙の該当欄の を鉛筆で黒く塗りつぶして下さい。

〔問題〕

1. 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
 - 1) 実験動物として使用されるウサギの大部分は、地中海沿岸地方に生息していた野生のナキウサギを飼いならし改良したカイウサギである。
 - 2) ウサギの性質は非常に温順で取り扱いやすいが、大きさが中途半端であることからその使用範囲は狭い。
 - 3) ウサギは発熱性物質に対する感受性が高いため、発熱性試験によく使われる。
 - 4) ウサギは発熱性物質に対して適度に敏感であり、静脈注射がしやすいが、体温測定がしにくい。

2. 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
 - 1) ウサギは耳静脈が細く不明瞭で注射や採血が難しい。
 - 2) カイウサギは実験動物としては使用されていない。
 - 3) ウサギは抗体を産生しやすく古くから免疫血清の作製に使用されてきた。
 - 4) カイウサギとナキウサギは分類上同じ科に属する。

3. 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
 - 1) ウサギの生理学的特徴の1つに食糞行動がある。
 - 2) ウサギの糞には夜間（特に明け方）に排泄される硬い糞と、昼間に排泄される被膜で包まれた軟らかく、つやのある糞の2種類がある。
 - 3) ウサギの食糞は硬い糞についてのみ行われ、肛門に口を直接当てて食べる。
 - 4) ウサギで食糞される糞はタンパク質、ビタミン類の含量は低いが、これを食べることによって胃の動きを活発にする。

4. 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
 - 1) ウサギでは血液学的に白血球のうち単球に相当するものは、エオジン好性の顆粒を持つ偽好酸球である。
 - 2) ウサギでは血液学的に赤血球のうち好中球に相当するものは、エオジン好性の顆粒を持つ偽好酸球である。
 - 3) ウサギでは繁殖生理学的に排卵周期が存在せず、交尾によって初めて排卵が起こる交尾排卵動物である。
 - 4) ウサギでは繁殖生理学的に排卵周期が存在し、交尾の有無によらず周期的に排卵が起こる。

- 5 . 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) ウサギは古くから系統のレベルで育種、改良がなされてきた。
 - 2) ウサギは、現在、多くの品種が存在するが、形態及び特性はほぼ同じである。
 - 3) ウサギは、元来、畜産用あるいは愛玩用を目的としたものであって、実験動物として開発されたものはほとんどない。
 - 4) ウサギの系統確立に努力が払われており、近交退化現象も弱いので多くの近交系がある。
- 6 . 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) 実験動物としてわが国で使用されているウサギの品種は日本白色種だけである。
 - 2) 実験動物としてわが国で使用されているウサギの品種は、日本白色種、ニュージーランドホワイト種が主であり、白色のダッチ種も使用されている。
 - 3) 実験動物としてわが国で使用されているウサギの品種は、日本白色種、ニュージーランドホワイト種が主であり、有色のダッチ種も使用されている。
 - 4) 実験動物としてわが国で使用されているウサギの品種は、白色の日本白色種、褐色のニュージーランドホワイト種が主であり、有色のダッチ種も使用されている。
- 7 . 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) ウサギの飼育架台（ラック）はケージの大きさに合わせた上下6段式のものが一般的で、1台に24～36個のケージが収容できる。
 - 2) 最近では給水装置や除糞装置を備えたウサギ自動飼育式架台が普及している。
 - 3) ウサギ飼育ケージには金属製とプラスチック製、木製がありほぼ同様の割合で普及している。
 - 4) ウサギの生産場ならびに研究機関においては、木製ケージが主体となっている。
- 8 . 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) ウサギ用の金属製やプラスチックケージは洗浄や消毒・滅菌が容易で衛生的であり、保温性や居住性の面で優れている。
 - 2) ウサギの飼育に金属製やプラスチックケージを用いる場合には、居住性、糞尿の汚れ、四肢の損傷防止などを考慮に入れ、様々な床材が使用されている。
 - 3) ウサギケージの天板のタイプとしてはステンレス製の平織金網型、クリンプ金網型、フラットトップ型、丸棒型、竹型、アルミニウム製の打抜き型などがある。
 - 4) ウサギ繁殖用ケージにはケージを3個並べ、通路を設けた3連ケージが用いられる。

- 9 . 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) ウサギの繁殖には哺育箱や巣材は不要である。
 - 2) ウサギでは体重に応じてケージサイズを大きくしていくことが動物福祉の面から適していると考えられている。
 - 3) 床敷は通常のウサギの飼育でも繁殖を伴う場合でも不要である。
 - 4) ウサギ用の床敷材は保温性や吸湿性、吸臭性は不要であり、清潔性さえ確保できればよい。
- 10 . 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) ウサギ給餌器はケージの扉にはめ込む方式のものとケージ内に壁掛け方式で装着できるものがある。
 - 2) ウサギ用給餌器ははめ込み式でケージ内側から給餌できるものが飼育管理上便利である。
 - 3) ウサギ用給餌器の大きさは固型飼料が20～50g程度入るものが手頃である。
 - 4) ウサギの摂水量を測定する場合はプラスチック製吸水管のついた金属製の容器（50～60ml）を取り付けて測定する。
- 11 . 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) ウサギは輸送ストレスによく耐え、体力の消耗が少ないが、輸送には細心の注意を払わなければならない。
 - 2) 外部から導入したウサギは、受け入れ時に品種（系統）、性別、週齢、匹数を確認し、体重と健康状態を調べた後、検疫期間は集団ケージに収容する。
 - 3) 自動給水装置では摂水量を把握することが容易であり、水を飲んでいないウサギは飼料も食べなくなることがわかる。
 - 4) 自動給水装置から水を飲んでいない個体を発見したら、吸水口へ強制的にウサギの口をつけさせるか、給水ノズルから水を滴下させて、水のある位置を覚えさせるなどの工夫が必要である。
- 12 . 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) ウサギでは自動給水装置で給水してもノズルに飼料かすがつまったり、いたずらしてネジを緩めたりすることはない。
 - 2) 自動給水装置でウサギに給水する場合は、定期的な設備の点検が必要である。
 - 3) ウサギに給水瓶で水を与える場合は、容量100ml程度のものを準備し毎日新鮮な水と交換する。
 - 4) ウサギに給水瓶で水を与える場合は、容量1,000ml程度のものを準備し2週間に1回の頻度で新鮮な水と交換する。

1 3 . 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。

- 1) ウサギ自動飼育式架台では糞尿はケージの下へ直接落ちるため、ケージは年に1回以上交換する。
- 2) ウサギの受皿つきケージの場合は1日に1回ケージ交換し、受皿も毎日水洗する。
- 3) ウサギは尿中の炭酸塩が尿石として器具に付着しやすいので、水洗時にはブラシなどで完全に洗い落す必要がある。
- 4) ウサギの尿石が器具に付着した場合は市販の尿石除去洗剤か水酸化ナトリウムを用いると効果的である。

1 4 . 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。

- 1) ウサギの繁殖の場では床敷の交換は月1回実施する。
- 2) ウサギの分娩前後の数日間は親にストレスを与えないため、なるべくケージや床敷交換は避けた方がよい。
- 3) ウサギの分娩前後の数日間は親にストレスを与えないため、なるべくケージや床敷交換を頻繁に行なう方がよい。
- 4) ウサギ用の飼育器具・器材は水洗、洗浄するだけで、定期的に消毒、滅菌を実施する必要はない。

1 5 . 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。

- 1) ウサギは非常におとなしく、咬みついたり、引っ掻くことはめったにしない。
- 2) 輸送後や授乳中のウサギは興奮していることがあるが、不用意にケージの中に手を入れても、威嚇したり、飛びかかってくることはない。
- 3) ウサギのつかみ方の基本は、片手で肩よりやや下を尾側から手のひらをあて、両方の耳を大きくつかみ上げる。
- 4) 大きなウサギは尾側から手のひらをあて、その際に両耳を手のひらの下に入れ、耳を強く圧迫して挟み、背部の皮膚と一緒に大きくつかみ上げる。

1 6 . ウサギの取り扱いに関し、正しいものをひとつ選びなさい。

- 1) 耳をつかんで持ち上げてもウサギが嫌がることはない。
- 2) ウサギを持ち運ぶ場合には、右手（左手）で臀部の皮膚を大きく握って、そのまま脇に挟み、左手（右手）をV字型に曲げて抱きかかえるようにする。
- 3) ウサギを脇に抱えたら、左手（右手）で前肢を軽く押さえてから右手（左手）を緩め、軽く頭部におく。
- 4) ケージから無理やり取り出そうとしたり、床に落としたりすると骨折することがあるので手荒に扱ってはいけない。

17. 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) ウサギの新生子における性別判定は容易である。
 - 2) ウサギの性別の見分け方としては、陰門と肛門の距離、陰門の形、および陰痕の有無などによって判定する。
 - 3) ウサギでは陰部と肛門の距離は雌の方が長く、雄の1.5~2倍程度である。
 - 4) ウサギの陰部に近い下腹部を圧迫すると雄は陰部と肛門間の距離が短縮し、尿道開口部と肛門は同一方向に寄ってくる。
18. ウサギの個体識別法の説明として、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) 暫定的な識別法としては色素塗布法が一般的である。
 - 2) 色素にはピクリン酸(黄)、フクシン(赤)、メチレンブルー(青)などが用いられるが、メチレンブルー(青)以外はあまり持続性がない。
 - 3) ピクリン酸は1回の塗布で2~3年は識別が可能である。
 - 4) 簡易な暫定方法として墨汁による内耳への識別記入も有効である。
19. ウサギの個体識別法の説明として、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) 永久的な方法としては入墨法と耳鉸法がある。
 - 2) 入墨法は多少の熟練を必要とするので、実施するためには実験動物技術師の資格が必要である。
 - 3) 耳鉸法は装着自体は難しいが、一度取り付けると絶対に脱落しない。
 - 4) 通常、入墨は腹部皮膚に行い、耳鉸は耳に取り付ける。
20. 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) ウサギにおける日常観察の要点は下痢、くしゃみ、咳、鼻汁の排出、目やにの分泌、および耳介の痂皮(かさぶた)などの観察で、これらの原因は全てウイルスによるものである。
 - 2) ウサギのおもな細菌性感染症として気管支敗血症菌病、パスツレラ病、緑膿菌病、などがある。
 - 3) ウサギのおもな原虫性感染症として耳疥癬、寄生虫性のものとしてコクシジウム病などがあげられる。
 - 4) ウサギのおもなウイルス性感染症としてクロストリジウム病、ティザー病などがある。
21. 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) ウサギの偽妊娠は交尾後4日目頃まで持続する。
 - 2) ウサギの偽妊娠は交尾後7日目頃まで持続する。
 - 3) ウサギの偽妊娠は交尾後14日目頃まで持続する。
 - 4) ウサギの偽妊娠は交尾後20日目頃まで持続する。

2 2 . 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。

- 1) ウサギでは明瞭な発情周期はないが、18～22日（平均21日）の間隔で繰り返されているといわれている。
- 2) ウサギの発情期は通常4～5日続き、このときの雌の外陰部は充血し、紫紅色を呈し、動きは鈍くなる。
- 3) ウサギには排卵周期はなく、交尾刺激により排卵が誘発される。
- 4) ウサギを交配する時は、雌の外陰部の色の変化をみて、雄を雌のケージに入れ同居させる。

2 3 . 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。

- 1) ウサギでは交尾が終了すると、雌が奇声を発し横か後方に倒れ、立ち上がって後肢で床を叩くなどの行動をとる。
- 2) ウサギを交配する際、雄が交尾を拒否した場合は、雌を保定し、交尾を助けてやる必要がある。
- 3) 生産場などで多くのウサギを交配する場合、追いかけて交配は一般的ではない。
- 4) 追いかけて交配により妊娠すると妊娠と哺育を同時に進行させることになる。

2 4 . ウサギの妊娠経過の説明として、正しいものをひとつ選びなさい。

- 1) 交尾後約24時間目に排卵が起こり、膣より移動してきた精子と卵管内で出会い受精する。
- 2) 交尾後4～5.5日で子宮に着床し、8日目頃に大豆大に成長する。
- 3) 交尾後15日目には親指大になり、触診によって妊娠が確認できる。
- 4) 交尾後25日目にはくるみ大に成長するので、腹部の膨らみによって妊娠を知ることができる。

2 5 . ウサギに関する下記の説明うち、正しいものをひとつ選びなさい。

- 1) 妊娠後期（28～30日目頃）には、乳頭周辺の胸部や腹部の毛をむしり、巣を作り始める。
- 2) 分娩は3時間から12時間くらいかけて行われる。
- 3) 母親は生まれた子の胎盤や羊膜を食べるようなことはない。
- 4) 新生子は赤裸であり、体重は日本白色種の場合400～800gである。

2 6 . 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。

- 1) ウサギでは産子数により子の体重は変化するが、産子数が多く、体重が小さい場合でも、間引いて産子数を調整するようなことは決して行ってはならない。
- 2) ウサギの平均産子数は小型種で約6匹、中型種で約8匹である。
- 3) ウサギは出生時は赤裸であるが、12～14日目には産毛が生え、15～19日目には耳の孔が開き、9～12日目には目が開いて歩き始める。
- 4) ウサギは40日齢頃より餌を食べ始める。離乳は55～60日の間に行う。

27. ウサギの保定法に関する説明のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) 保定法には手による方法、足による方法、固定器を用いる方法等がある。
 - 2) 固定器には円筒型、箱型、首かせ型、背位型、モンキーチェア型などがある。
 - 3) 円筒型、箱型は耳を使う実験、首かせ型は発熱性試験や皮膚反応試験、背位型は頸動脈採血時や外科手術時などに用いられる。
 - 4) 種々の固定器が市販されているが、1人で容易に手技が行える固定器は今のところ市販されていない。
28. ウサギの除毛法に関する下記の記述のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) 実験目的に応じてウサギを腹位または背位に保定し、外科用剪刀で丁寧に刈り取る。
 - 2) 完全に除毛する場合は、市販の除毛クリームか約10%の硫化バリウム水溶液を用いる。
 - 3) 市販のヒト用除毛クリームは安全性が確立されており、皮膚に対する刺激性はないので安全である。
 - 4) 市販のヒト用除毛クリームはウサギに適用しても効果がなく完全に除毛することはできない。
29. ウサギのヘアサイクルに関する下記の説明のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) ヘアサイクルの成長期にはアイランドスキンとなる。
 - 2) 皮膚を用いる試験には休止期のものを使用するとよい。
 - 3) ヘアサイクルの休止期にはラフスキンとなる。
 - 4) ヘアサイクルの部分成長期にはスムーズスキンとなる。
30. ウサギの経口投与法に関する下記の説明のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) 経口投与用固定器を使用しても、1人で投与するためには開口器が必要である。
 - 2) ウサギを保定し、頬部を下側から挟むようにするとウサギは容易に口を開く。
 - 3) 犬歯でカテーテルを傷つけないよう注意しながら兔唇部よりカテーテルを挿入する。
 - 4) 注入量は20mlまでとする。
31. ウサギの皮下投与法に関する下記の説明のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) 注射部位の皮膚を軽くつまみ上げ体軸と直角に注射針を刺入する。
 - 2) 針を刺入後、針先を前後に動かして正確に皮下に入っていることを確認し試料を注入する。
 - 3) 注入量は2~5mlとし、それ以上の投与量の場合は何カ所かに分けて行う。
 - 4) 針を抜いた後、液が漏れないように注射部位の周辺をよくもみほぐす。

- 3 2 . ウサギの皮内投与法に関する下記の説明のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) 注入量は1～2mlが限度である。
 - 2) 正確に皮内に入っていると注入時に全く抵抗感がなく、小さな丘状の膨らみができる。
 - 3) 注入後は数秒間待ってから針を抜けば試料の漏出を防ぐことができる。
 - 4) 注射針はツベルクリン用三段針を用いるとやりやすい。
- 3 3 . ウサギの腹腔内投与法に関する下記の説明のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) 固定器を使用する場合は腹位に保定する。
 - 2) 補助者がいる場合は、両前肢の関節を伸ばして左手で合わせ持ち、右手で両後肢をつかんで保定する。
 - 3) 頭部を上にして腹腔内臓器を胸部側に偏在させ、臓器に傷をつけないようにすることが大切である。
 - 4) 術者は下腹部の正中線よりわずかに離れた部位に約90度の角度で注射針を刺入し、皮下に沿って針先を進め、次に針を約90度の角度に立て腹膜を貫通して試料を注入する。
- 3 4 . ウサギの腹腔内投与法に関する下記の説明のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) 注入量は約0.1mlを目安とする。
 - 2) 注入量は約1.0mlを目安とする。
 - 3) 注入量は約10.0mlを目安とする。
 - 4) 注入量は約100.0mlを目安とする。
- 3 5 . ウサギの静脈内投与法に関する下記の説明のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) 耳翼辺縁静脈を使用する。
 - 2) 円筒型または箱型固定器に入れて保定し、耳介の血管をこするなどして十分怒張させ、耳介先端部に向けて注射針を刺入する。
 - 3) 針を刺入後注射器の内筒を少し引いて血液が注射器に流入してこないことを確認したうえで血管の押さえをゆるめ試料を注入する。
 - 4) 注入後は刺入部位から1cmぐらい耳根部側を乾綿などで強く押さえ完全に止血する。
- 3 6 . ウサギの耳翼辺縁静脈からの採血法に関する下記の説明のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) 耳介の血管を十分怒張させ、耳根部に向けて注射針を刺入する。
 - 2) できるだけすばやく吸引し、採血後は乾綿などで強く押さえて完全に止血する。
 - 3) 採血量は2～5ml程度である。
 - 4) 採血量は40～50ml程度である。

37. ウサギの心臓採血法に関する下記の説明のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) 局所麻酔下で実施する。
 - 2) 反復採血は何度でも可能である。
 - 3) 全採血の場合は80～100mlの採取が可能である。
 - 4) 全採血の場合は800～1,000mlの採取が可能である。
38. ウサギの頸動脈採血法に関する下記の説明のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) 全身麻酔下で全採血を目的とした採血法である。
 - 2) 頸動脈に長さ2～3cmのポリエチレンチューブを心臓に向かって挿入する。
 - 3) 頸動脈に長さ20～30cmのポリエチレンチューブを心臓と反対側に向かって挿入する。
 - 4) 採血量は1,000～1,500ml程度である。
39. ウサギの採尿法に関する下記の説明のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) 雌の場合、外尿道開口部は外部から確認できないので、膣口を開き膣の背側にある陰核に沿って、膣前庭腹側壁にカテーテルを押しつけるようにして挿入すると外尿道口に入る。
 - 2) カテーテルの先端が腎臓に達すると自然に尿が流出してくるのであらかじめ準備した容器に採取する。
 - 3) 雄の強制採尿法は雌と異なり熟練を要する。
 - 4) 自然排尿量は24時間で100～250ml程度である。
40. ウサギの採糞法に関する下記の説明のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) 採糞法は少量であれば膀胱を圧迫すれば通常数個の糞塊が採取できる。
 - 2) 多量の糞を集めるには代謝ケージを使用する。
 - 3) 代謝ケージ使用した場合、1日あたり200～400gが採取できる。
 - 4) ウサギに首かせをして食糞を防止し、昼間に排泄される軟らかい糞を採取することもある。
41. 下記のうち、正しい説明はどれか。
- 1) 市販のウサギ用固型飼料はすべてウサギ専用で作られたもので、他種動物と兼用可能なものはない。
 - 2) ウサギの給餌法には不断給餌法と制限給餌法がある。
 - 3) ウサギの制限給餌法は管理の省力化の面では利点がある。
 - 4) ウサギの制限給餌法では餌が長期にわたって残りやすいので特に衛生面の注意を要する。

4 2 . ウサギに関する下記の説明のうち、正しいものはどれか。

- 1) 上顎および下顎切歯の2本は重なり合っており、このことからウサギは重歯目と言われる。
- 2) 上顎切歯の4本は重なり合っており、このことからウサギは重歯目と言われる。
- 3) ヒトの疾患モデルとしてはとくにWHHL(遺伝性高脂血症)が有名である。
- 4) ウサギでは確立された近交系がない。

4 3 . 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。

- 1) ウサギの飼育の場では、省力化のため多くの施設で自動除糞飼育機が使用されている。
- 2) ウサギの自動飼育装置には強制個別換気方式ケージ、ベルトコンベア式、ワイパー式、水洗式、ケネル式等がある。
- 3) ウサギ飼育用自動除糞装置の稼動時間設定は、飼育室内の臭気や湿度に関係なく、一定の間隔に設定しなければならない。
- 4) ウサギ自動飼育装置の床の尿石洗浄や飼育架台の細部にわたる汚れの除去は、ケージを取り付けたままで行う。

4 4 . 下記のうち、正しい説明はどれか。

- 1) ウサギ用固型飼料の給餌法は不断給餌法が一般的である。
- 2) ウサギの飼育において飼料が残ると湿気を吸収して固形飼料が軟化し、カビが生えることがある。
- 3) ウサギの給餌量は体重2～3kgのもので1日120～180g、妊娠および哺育中のものでは180～250gを一応の目安とする。
- 4) ウサギの給餌量は体重2～3kgのもので1日180～250g、妊娠および哺育中のものでは120～180gを一応の目安とする。

4 5 . 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。

- 1) ウサギの性別判定の際、陰部に近い下腹部を圧迫しても雄ではさほど伸長せず、尿道開口部は肛門と同一方向に動く。
- 2) ウサギの尿道開口部のかたちは雌が円筒形、雄が切れ目状になっている。
- 3) ウサギの雌では陰部の左右上方の皮膚がわずかに膨れていたり、軽い火傷の痕のような部分がある。
- 4) ウサギの新生子雄の陰部上方の正中線近くには1対の円形をした小斑紋(通常は乳白色、充血すると小豆色)があるが雌にはこれがない。

- 46 . 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) ウサギで比較的起こりやすい異常としては、不整咬合による犬歯の伸びがある。
 - 2) ウサギの不整咬合は放置しておくとも餌が食べられず、次第に痩せてついには死亡する。
 - 3) ウサギの不整咬合の治療は、歯科用バーまたはラジオペンチで抜歯し、消毒しておくといよい。
 - 4) ウサギでは頸椎の脱臼および骨折や四肢の開張による内反症などが時折発生する。
- 47 . 下記のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) ウサギは交尾後妊娠していないのに、妊娠しているものと同じ巣作りの行動をとったり、腹部が膨満したりすることがあるが、これを偽妊娠という。
 - 2) ウサギの偽妊娠は、交尾行動がなくても起こることがある。
 - 3) ウサギの妊娠期間は、日本白色種で平均32日、ニュージーランドホワイト種で平均31日であり、両種とも、28～34日のバラツキがある。
 - 4) ウサギの妊娠期間はどの品種でも31日で品種間のバラツキはない。
- 48 . ウサギの体重測定に関する説明のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) 体重測定は発育や健康状態を把握するうえで大切な作業の1つである。
 - 2) 体重測定は時刻を定めずに行った方が1日のバラツキがよくわかり好都合である。
 - 3) 制限給餌を行っている場合は、給餌後の満腹時に測定する。
 - 4) 秤は離乳前の子ウサギを測定する場合は感量10g、秤量800g～1kg、それ以上の大きさのウサギについては感量100g、秤量4～6kg程度のものを使用する。
- 49 . ウサギの静脈内投与法に関する下記の説明のうち、正しいものをひとつ選びなさい。
- 1) 頻回に投与する場合は耳根部から耳介末端部の方へ順次刺入部位を移動させる。
 - 2) 注入量は2.0mlまでとする。
 - 3) 投与を多量に行う場合は、注射液を体温まで温めておくなどの配慮が必要である。
 - 4) 投与を多量に行う場合は、注射液をできるだけ冷やしておくなどの配慮が必要である。
- 50 . 下記のうち、正しい説明はどれか。
- 1) 哺乳中の子ウサギは、生後1週目頃から盛んに飼料を食べ始めるので、この時期から離乳までは不断給餌法とする。
 - 2) 哺乳中の子ウサギは、生後3週目頃から盛んに飼料を食べ始めるので、この時期から10カ月齢くらいまでは不断給餌法とする。
 - 3) 成熟ウサギの1日の摂水量は、300～500mlである。
 - 4) 成熟ウサギの1日の摂水量は、30～50mlである。